

令和 3 年度

第 3 回

三鷹市健康福祉審議会 会議録（要旨）

1 日 時	令和4年2月7日(月) PM7:00~8:21
2 会 場	オンライン審議
3 出席委員 (20人)	宇井義典(会長)、和田敏明(副会長) 内原正勝、大杉晃平、香川卓見、窪田純子、神崎恒一、小杉修、小玉充、 嶋田正和、杉山一延、平呉夫、高橋景市、竹内美佐子、竹川健太郎、 田原なるみ、中澤敏、新津健朗、平岩康美、山本真実
4 市側出席者 (13人)	小嶋義晃(健康福祉部長)、馬男木由枝(健康福祉部調整担当部長)、 齋藤浩司(保健医療担当部長)、嶋末和代(地域福祉担当課長)、 荻野るみ(障がい者相談支援担当課長)、大高俊彦(高齢者支援課長)、 竹内康真(介護保険課長)、川口真生(生活福祉課長)、 小島美保(保健サービス担当課長)、 山口和昭(新型コロナウイルスワクチン接種担当課長)、 鈴木清一(臨時特別給付金事業推進室長) 和泉敦(子ども政策部長)、齋藤真(子ども政策部調整担当部長)
5 会議の公開 ・非公開	公開
6 傍聴人数	0人
7 会議次第	1 会長あいさつ 2 報告事項 (1) 新型コロナウイルスワクチン接種事業について (2) 自宅療養者相談支援について (3) 休日診療所・休日調剤薬局等一体化整備事業について (4) 旧どんぐり山施設利活用について (5) 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業について 3 その他
8 資料	[事前送付資料] (1) 令和3年度第3回三鷹市健康福祉審議会次第 (2) 新型コロナウイルスワクチン接種 資料 【資料1】 (3) 自宅療養者相談支援について 【資料2】 (4) 休日診療所・休日調剤薬局等一体化整備事業について 【資料3】 (5) 旧どんぐり山施設利活用プロジェクト 「福祉Laboどんぐり山(仮称)」事業計画 【資料4】 (6) 「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業」 について 【資料5】 (7) 令和3年度第2回三鷹市健康福祉審議会会議録(要旨)(案)

[開 会 (午後 7 時00分)]

1 会長あいさつ

省略

2 報告事項

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

【新型コロナウイルスワクチン接種担当課長】

(事前送付資料(2)に沿って報告)

(質疑応答)

【委員】 1回目、2回目のスキームに比べ、3回目は1回だけなので個別接種の予約などもそれほど混乱なく、うまく行っているのではないかと考えています。

しかし、1回目、2回目と違い、発熱対応が結構大変なので、どの診療所もワクチンと発熱対応の両立ということでかなり苦心されているところが多いのではないかと考えています。

(2) 自宅療養者相談支援について

【保健医療担当部長】

(事前送付資料(3)に沿って報告)

(質疑応答)

【会長】 ありがとうございます。私のところでも在宅の相談支援を実施しており、徐々に数がだんだん増えていくというような状態です。

【委員】 これまでは保健所が感染者すべてに電話をして丁寧に対応していましたが、今は我々が発生届を出すといろいろな情報が入っているショートメールが1通感染者に届きます。我々は自宅療養者の相談を一緒に受けるということで、例えばいつまで療養が必要だとか、あるいは熱が出てきたり咳が止まらない場合には薬局と連携して処方箋をファクスして届けてもらうとか、そのような取組を行ってい

ます。第5波までとは違うところは重症者が比較的少ないので、感染者は多くて大変ですが、急変して救急車を呼ぶなどの対応は今のところ少なくなっています。

一方で、高齢者施設などでは入院対応になり、なかなかベッドが見つからなくて苦労しているような例もあるように聞いています。

【委員】 「うちサポ」という東京都のシステムがありますが、三鷹市のサポートとはどのような連携になっていますか。

【保健医療担当部長】 現在保健所の業務がひっ迫している関係で、特に基礎疾患のない50才以下の方にはショートメッセージだけが保健所から送られてくるということです。市民からこちらにご連絡があった際はまず、そのメッセージをご本人がご覧になっているかということをお尋ねしています。

そのメッセージの中には、「うちサポ東京」のことも含めた様々なご案内が発生届の内容に応じて含まれていますので、そちらをよく確認をして、利用できるサービスや自己の健康観察に使えるようなものを活用してくださいということを、市からも都の事業についてのご説明をしています。

また、東京都のメッセージの中にも、東京都のサービスと併せて各区市のホームページ等へのリンク案内があり、都のサービスとは別に、お住まいの各区市町村による個別のサービスで利用できるものは利用するという案内を東京都もしています。

【会長】 私のところは発熱外来を開設していますが、そこで見つかった陽性患者さんには翌日から毎日電話をかけ、保健所の支援が始まるまでの間は必ずつながることにしています。

保健所からのショートメッセージは電話番号等が記載されており、クリックするだけで自分の必要な情報のところにつながるよううまくできています。ショートメッセージはとてもよくできているので、若い人は困らないで情報を得られると思います。

(3) 休日診療所・休日調剤薬局等一体化整備事業について

【保健医療担当部長】

(事前送付資料(4)に沿って報告)

(質疑等なし)

(4) 旧どんぐり山施設利活用について

【健康福祉部調整担当部長】

(事前送付資料(5)に沿って報告)

(質疑応答)

【委員】 私は関連協議会の立場で参加していますので、その利活用に関しての協力状況について簡単に報告します。

ニーズ調査のようなアンケートへの協力、在宅医療・介護研究センターに関しては可能な範囲でプレ研究のようなものを走らせ始めているところです。

ワークショップの参加や、実際に事業者の方々にこの研究を体験していただきながら少しずつ協力を進めている段階になっていますので、三鷹の介護保険の事業者の中でもだんだんこの旧どんぐり山の利活用がどのような形になってきているかということが、少しずつ理解が深まっているところかと思っています。

【委員】 生活リハビリセンターは非常に画期的だと思いますが、利用者をどのような形で決めることになるのでしょうか。病院、医療機関などいろいろあり、数も結構多くなっていくのではないかと思います。

【健康福祉部調整担当部長】 生活リハビリセンターについて、運営を社会福祉事業団に指定管理でお願いするというのを考えていますのは、老人保健施設はなかいどうを運営している法人であり、医療的な観点では、医師や看護師もおりますので、在宅復帰に向けた施設でのつなぎとしての役割に、そのノウハウを生かせるということを想定しています。

また、在宅に戻られた後の地域での生活などは医療的観点でも課題が出てくると思いますので、事業計画がもう少し整理ができた時点で市の医師会にもご協力いただけるかどうかのご相談をさせていただこうと考えています。

【委員】 生活リハビリセンターは大変よいアイデアだと思いますが、定員が7人になっています。三鷹市の人口とそれからどんどんと年齢が進んでいくこの社会で、7人というキャパシティはどのように算出されたのでしょうか。かなり少ないという感じがします。

【健康福祉部調整担当部長】 ひとつは構造上の理由から、もともとある居室を生かしてというところも考えていまして、どんぐり山の収容人数がそれほど大きなところではありませんでした。そのうえで、部屋をご家庭を想定したようなイメージで考えていましたので、ミニキッチンやトイレ、場合によってはお風呂も設置するというのも想定しながら、ご家庭での段差のある生活に戻るときにどのようなものがフォローで大切なかというところで考えています。

そして、体制の面ではもちろん介護人財の不足ということもあり、ここで利用料を徴収して効果を上げるというよりは7人程度で検証をしていくのが研究、研修、人財育成を連携していく中では十分な人数ではないかというところで想定をしています。

【委員】 あくまでもその介護のための施設ではなく、介護についての人財を育成したり、研究するための施設であるということですね。

【健康福祉部調整担当部長】 はい、そうです。そのため、回転を多くできるようなイメージを考えていますので、数日から1か月の間で入所の期間を調整して、そこから在宅に戻った後も検証を続けていけるような仕組みを想定しています。

【会長】 ニーズに応えるというよりも、パイロットスタディを行っていくというような考え方でよいのではないかと思います。

(5) 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業について

【臨時特別給付金事業推進室長】

(事前送付資料(6)に沿って報告)

(質疑等なし)

3 その他

(1) 各委員あいさつ

省略

(2) 今後の予定

第11期三鷹市健康福祉審議会委員の任期は令和4年5月31日まで。

次期第12期三鷹市健康福祉審議会については、3月下旬頃に各団体へ推薦を依頼し、
新年度6月に次期委員の委嘱式及び第1回審議会を開催予定。

[閉 会 (午後8時21分)]